

会議の名称	加東市生活支援体制整備推進協議会
開催日時	令和5年11月9日（木） 午後1時30分から3時40分まで
開催場所	加東市役所3階 301・302会議室
会長の氏名（藤原 慶二） 出席委員の氏名 藤原慶二 豊田雅晴 内藤喜和 神戸三男 東嶋正一 藤井貴久代 山内俊一 橋本雅樹 東 正伸 山口雅隆 楮本俊也 山田かほり 岡田彩葉 森田真加 岡田知佳 欠席委員の氏名 高内義弘 長谷川敏朗 高松善教 臼井すず子	
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 健康福祉部長 近澤孝則 高齢介護課長 井澤彰子 副課長 高濱さおり 主査 青野真理子	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開 会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 会長、副会長選出 会長に藤原慶二委員、副会長に山口雅隆委員を選出 5 議事 1) 報告事項 (1) 加東市生活支援体制整備事業の実施状況について【資料3】 第1層及び第2層生活支援コーディネーターから資料3に基づき加東市生活支援体制整備事業の実施状況について説明  会長：ありがとうございます。全体と各地域の説明がありましたが、何かご質問等があればお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。 委員：滝野地域連絡会でのデマンド型交通というのをもう少し詳しく聞きたいです。 委員：加東市で、来年1月から、タクシーを使って自宅から目的地までの高齢者の移動を支援するという実証実験が始まるにあたって、滝野地域でちょうど移動支援の話し	

合いをしていたところなので、市の担当者から話を聞きました。

事務局：公共交通担当の企画政策課が中心でやっております。1月から実証実験ということで、とりあえず半年間やってみようということで、まず事前登録が必要になっていまして、利用者証を持たれた方が、電話で予約して家と目的地までを行き来するという制度です。いろいろ条件はあるのですが、そういった制度が実験的に始まります。11月から事前登録が始まっていて、地区の公民館等を日曜日に回って、説明会を行う日程が組まれております。

会長：他にいかがでしょうか。

委員：私もデマンド交通に興味があって、加東市の長年の課題であった交通の話や集いの場など、いろいろあると思うのですが、担当の課が違うのですが、集いの場とデマンド交通とを上手く組み合わせたらいろいろ改善される場所も期待できるのかなと思っています。具体的にそのようなお話は出ていたりしますか。例えば先ほど滝野地域で出ていた移動販売のところも、メンバーが固定化して同じメンバーばかりだという話も出ていたので。ちょっと興味があるけど、移動手段の問題で行けないという方がいるのかと思うのですが。

事務局：デマンドタクシーの実証実験が始まるのですが、加東市内は路線バスが走っていて、やはり路線バスといったら市内と市外を繋いでいる広域的な移動手段なので、路線バスを無視して市の方でいろいろなルートの設定というのがなかなか難しい。あまり市の方でやり過ぎたら路線バスの撤退というのがどうしても出てくるというところで、デマンドタクシーというのは、基本的には旧町域のエリア内での移動がメインになってきます。タクシー料金が2,000円未満の時には、1人乗車で300円の負担で済むということを、一回やってみようということで、実験としてやっていきますが、この実験の中で、例えば利用者が増えてきたということになれば、今現在の福祉タクシー券の位置付けにも絡んできますので、今からの実験の結果で、利用者がどれぐらいになるかというところで次のステップが決まってくると思います。

委員：最近この制度を知って興味があったので、実験の利用者があまり多すぎても少なすぎてもどうなのかと思うので、事業所にも持ち帰って、この話を広げていきたいと思っています。

委員：滝野地域連絡会では、デマンドタクシーの課題としまして、滝野地域のみ移動という縛りがあって、その辺を外してもらいたいと市へ要望をしていくところです。今現在では、高齢者はやはり病院や買い物に使用したいというところです。滝野地域では、先ほどの話にもありましたように、移動販売ができましたが、病院と買い物というところで、加東市民病院には行けるのですが他の地域のスーパーへ行けない、滝野地域は滝野地域だけということで、そうなれば、病院も、今行っている病院へは行けないということが起こってくる。その辺が大きな課題になっています。旧町という

縛りを外していただきたい、全体的に考えてもらいたい。路線バスとの関係があると言われていましたので難しいみたいですが、ぜひともお願いしたいです。

委員：旧社町では、デマンドタクシーのような感じで、福田地域、米田地域と鴨川地域には10人乗りのバスを走らせています。各地域から、加東市民病院やイオンやボンマルシェに行ったりしますが、どこから乗っても100円です。一番古いのが鴨川地域、その次が米田地域、その次が福田地域で、私は福田地域で10人乗りの車を運転しているんですが、結構乗られています。片道100円で安いですから。ただ、今言われましたように路線バスのバス停から300メートル離れていないといけないのです。そういう現状です。

会長：ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。ないようなので次へ進めます。

続きまして、2) 協議事項(1) 加東市全域における生活課題の対策と今後の取組について、事務局の方から説明をお願いします。

## 2) 協議事項

### (1) 加東市全域における生活課題の対策と今後の取組について【資料4】

事務局から、1) 報告事項の内容と資料4を踏まえて今後の取組について説明

会長：各グループに第2層生活支援コーディネーターが入っていますので、司会の方はコーディネーターにお任せをしていただければと思います。最後に、グループワークで話し合った内容を発表して共有をする時間も取り、更に簡単なまとめをしていく予定です。それでは、グループワークの方を進めていただきますよう、よろしくお願いします。

### (2) グループワーク・発表

会長：では、せっかくの機会ですので、他のグループがどういったことを話し合われたのかを共有していきたいと思います。3グループから、発表をよろしくお願いします。

委員：まずゴミ出しですが、東条地域には別荘地があるのですが、それも以前は結構人がおられたのですが、今はもう高齢化でなかなかゴミを出すのも大変だということで、道路沿いに出してもらって、ボランティアの方がそれを回収して、ゴミステーションが1箇所があるのですが、そこまで運ばれるという活動をされているところがあります。他の地区でもできないかと思うような取組だと思われま。

それから買い物ですが、結構コープの個配を利用される方が多くて、買い物が行きにくい、コープだったら注文書を書いていたら配達していただけるということで、利用される方が多いです。それから、ある地区ですが、まちかど体操が終わった後に、希望者を募って近くのスーパーまで行くという取組もなされているようです。

今後の取組については、草刈りに困っている家があったら助けに行けるのではないかと、ボランティアの方で考えていけないかという話も出ました。それから見守りです

が、県道沿いの家があるので、道を通りながらどうなってるのかなというのを見守りを兼ねてしていけたらということをお話しました。移動手段については、デマンド型交通云々の話が出ていたのですが、帰りの時間を予約するなどが課題で、自分の都合で使いたいときに利用できないということがあるのではないかとということです。東条地域も自主運行バスは走っています。これも運転手不足や行く場所が決まっている、乗り場も決まっているということです。移動手段をうまく組み合わせて使っていけたらいいのではないかと思います。あとはスクールバスの利用ということで、走っていただいているのですが、あまり乗っているのを見たことがないので、交通手段というのは以前から大変難しい課題ではないかというのが現実です。最後に、担い手不足ですが、結構シニアクラブのない地区もあります。婦人会もなくなったり、子ども会も、子どもの人数が少なくてなかなか活動ができないと言って、いろいろな地区の行事はやらないといけないということで、各地区苦労されています。これも、やめたら簡単にやめれるのですが、なかなかやめられないというなかなか難しい話です。居場所はやはり地区の中でも作っておかないといけないので、敬老会やその他ずっと細々ではありますけどやっているのが現状です。

会長：ありがとうございました。続いて1グループお願いします。

委員：まず移動手段の確保ということで、高齢ながらも運転免許を持っていらっしゃる方は、運転できるうちはいいですけど、やはり運転免許証を返還するとなると、たちまち交通弱者という問題に直面してしまう。そのために、加東市はデマンド型交通の実証実験をしようとしていると思うのですけれども。私が周りから聞く話では、小野市のようにららんバスの形態で、運営ができないのか。小野市にできてなぜ加東市でできないのか。交通手段の確保というのが、この公共交通機関の発達してない加東市においては本当に深刻な問題になっているだろうなどが感じます。

次にゴミ出しですが、私の場合はまだあまりこういう話は、耳にはしません。地域によって非常に差があるとは思いますが。高齢化率が高い地域や、これからそうなるであろう地域というのはもう大変なことになるかと思えます。もし、自分の地域でこういう問題が出てくると、地区の集会でおそらく問題提起がされるでしょうし、その対策として、隣保単位で、実働部隊ができるのではないかと、そういう空気を感じております。一方、ケアマネジャーに、ゴミ出しで困っていらっしゃる方は多いのですかというのを確認したら、結構ありますと聞くのですが、地域によっては、いやいや、うちの周りではそんなことないなど、この温度差は何だろうという意見もございました。

次に担い手不足ですが、シニアクラブも会員の対象になる方が結構多いのですが、その対象年齢になっても若い方が加入しない傾向になってきたと聞きます。だから同じ人がずっと役員を続けられないといけないという問題も生じております。地域役員につ

いても、私の地区を見ましても、世帯数が少ないですし、世代交代してもその人もやがて役員をして、次の役員候補者がいない、これ2巡目にいくのかなという、人材が枯渇してきたという問題も生じているという現実がございます。

次に、居場所づくりの話ですが、施設の方に居場所づくりの状況についてお尋ねすると、職員や利用者がコロナにかかったりして、なかなか施設内で対外的にやるというのは難しい、コロナ次第だという話がありました。一方、私どもの地区では、恒例でやっておりました村の行事が、コロナにかこつけて自粛し、まだ時期尚早ですね、ということを出しますと、いつまでそういうことを言い続けるのか、活動再開を考えたことはないのか、と役員が責められるという状況です。やはり高齢者の方は活動の場を求めているという空気が非常に伝わってきます。コロナが心配だったら、心配な方は敢えて参加する必要はないのではないか、参加したい人だけでも参加して、やはり活動というのは維持していくべきではないのかという前向きな活動の場を求める意見というのは、根強くあります。大体そう言いながら、実際に活動の場ができると、参加者の多くは女性で、男性は数えるほどしかない。そもそも、女性は社交的で、男性は閉鎖的で、男はそもそもそういうものを求めてないのではないかという極端な意見もございます。

会長：ありがとうございました。最後に2グループ、よろしくお願いします。

委員：デマンド型交通というところで、いろいろな縛りを撤廃しないと、やってもやった時だけで後へと続かないのではないかという意見が出ました。他市町でもそういう事例を聞いたりしますので、やはりそういう縛りを撤廃しないと利用者がなくなるとい話が出てます。

ゴミ出しですが、神戸の方ではそれぞれがアプリを使って、ゴミ出しを手伝って欲しいや、草引きを手伝って欲しいなどといったことを依頼できるアプリがあると聞きました。ゴミ出しの時には、最終的にゴミを捨てる場所を掃除する人がいると思いますので、当番が回ってきますので、その方が困っていらっしゃる場所を把握できるので、そこへ行って、ゴミを持っていったらどうか、手伝いをすればどうかという話も出てます。

担い手不足では、シニアクラブの方はどういう仕事されてるのかを質問したら、結構いろいろな文化を若者に伝えたりなどもあるのですが、その反面、暑い時に草引きをしたり掃除をしたりという活動があったり、あとは新規役員を決めるという時には、役員を決めないといけないから嫌など、そういった苦情も会員から聞いたりしているので、そのあたりも、草引きだったら業者があるので、業者に任せるところは任せたらどうか、そういう方法もあるのではないか、少し楽にしたら加入してくれる人もあるのではないかという話も出ています。それから、その上で、役員はスマホが使えないといけないやパソコンが使えないといけないというのがあって、高齢者には非

常に苦手なところで、でも今からはデジタル化していくので、やはりそういうのが苦手ではなくて、ドコモさんやそういう業者に任せて来てもらって教えてもらったり、高校生の方に教えてもらう時間をとってもらうなどで、何か地域と触れ合うことができるのではないかなというようにも出ていました。

居場所づくりですが、地区に公民館があるので、そこを月1回か2回開放して、自由に過ごせるような居場所を作るという感じで、そこには中学生も小学生も入っていたり、あとは子育て中の若いお母さん方も赤ちゃんを連れて行くと、そこにお年寄りがいらしたら、いろいろな教えがあったりなどで、地域で交流ができるのではないかなということで、公民館のあり方ということが出ていました。

会長：ありがとうございます。

皆さんの発表をお伺いさせていただいた中で、今日ここにお出した生活課題は、皆さんどうですか、加東市だからと思っている人がいらっしやるかどうかだと思います。どこに行っても同じような課題は出てくるのですよね。移動、ゴミ出し、担い手がない、居場所がないというところで、やはりどこでも出てきてしまうもので、ある意味日本が抱えている大きな社会問題といえるものになるのではないかなと思います。

例えば、移動手段のところ、いろいろな組み合わせをすればいいとか、柔軟な対応をしてくれているところというのは、多分皆さん生活の中で細々あると思うのです。ただそれはあくまで、その人との関係性の中で成り立っているものであって、これを一般にルール化してしまうと、やはりどこかで無理が生じてしまうということがあるので、もちろん口伝えでいろいろと情報共有していくことは良いとは思いますが、だからこれをルール化しましょうというのが、本当に正しい選択なのかどうかというところをここは冷静に考えていけないといけないところなのではないかなと思いました。加東市の場合は、デマンド型交通ということで、これから実証実験がスタートしていくと思います。一方で、他市ではライドシェアをやっているところもあります。だからいろいろな形が出てくると思います。使い易さや使いにくさがあり、その中の最適解がどこなのかということを考えていく。実証実験なので、いろいろな制約がある中で進んでいくということ踏まえた上で、その実験を経て、では実際にこれで動いていくのか、修正するのかというのが必要になってくるのだらうと思います。そういうことを考えていけないといけないところと、もう一方で、本当に身近な地域のところに行くと、いろいろな活動団体の担い手がいなくなっている。その担い手はそもそもいないのですが、人口が減っている、高齢化していつているのだから担い手が減っていくのは当然の話ですということなのなのですが。だからこそ、活動を続けられないといけないものと、閉じないといけないものというのが必ず出てくると思います。閉じることは実はとても難しいです。動いているからこそ、そこに参加できて

いる人がいる限りは、完全にこの活動が要らないという判断は絶対につかないということが出てくると思います。その時に、活動が別々で少人数で動くことが良いのか、どこかが合流して、二つを一つにしていくことが良いのかということ、多分地域の方がそろそろ本気で向き合わないといけない現状に今来ているのではないかと思います。それと同時に、若い人が入って来ないということも大きな課題として出てくると思います。多分いろいろな事情があると思います。本当に役員になりたくないなども、素直な感情だと思います。今、私達は学生を相手に講義をしますが、学生でも上り詰めていきたいというような考えはあまり持っていないで、むしろ、平々凡々と責任をそんなに負わずに、社会を終えていきたい感じの学生が多くなってきていて、そういった層がこれから地域に出て行くとなると、やはり役員になるということに対するネガティブな感情や考え方というのが出てくるのは当然のことかなと思います。その時に、そもそも役員の役割というものが何なのか、それは1人が担わないといけないのか、複数で担えるのかというようなことを、少し役割の明確化とその分担というところを考えていくということが必要になってくる。ICTを使えないといけないというような課題も出てきていると思います。使えることに越したことはないと思いますし、使えないから駄目というわけではないのですが、苦手なことが出てきた時に、得意な層の方に引き渡していくという勇気を持っていくということも、多分、上の世代の方々が必要になってくるのかもしれない。決してそれはあなたたち要らないですという話ではなくて、一活動者として一緒に活動していく、どちらかという相談役みたいな感じで、立場が変わっていくというようなことも積極的に進めていかないといけない、そういった時代に今差しかかっているということ、改めて今回皆さんのお話を聞いて感じたところになります。

このようなご意見をもとに、実際にその活動の方に、或いは生活課題の解決や対策というところに向けて、これからコーディネーターを中心として取組を進めていくと、最初から政策形成は難しいと思いますので、皆様のご協力があって、モデル的に或いはパイロット的に活動をスタートさせていく。それが、ある地域でうまくいけば、他の2地域でもできるのかというようなところ、それこそ試験的にスタートして3地域がうまくいけば、これを政策に乗せて、市の方が全面的にバックアップをしていくという流れを、今後、まずは作っていくということが大切になってくるのではないかと思います。私の方からの簡単なまとめとして変えさせていただきます。

是非このような機会を、皆さんまたそれぞれの活動されている場に戻った時も、いろいろ話し合いを続けていただければいいかなと思います。

ここで本日の議事を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

では、事務局に進行をお返しします。

事務局より事務連絡

7 閉 会